

# 低学年部研究計画

## 1 児童の実態

### (1) 1年

- ・入学してそれほど経っていないので、国語の授業では、ひらがなの習得を中心に進めている。ひらがながほぼ読める児童が大多数であるが、まだ覚えきっていない児童も少数ながらいる。
- ・話の聞き方はおおむね良好だが、内容の理解については個人差が大きい。
- ・話すことについては、日常生活の会話において不自由はないものの、単語のみの話し方だったり、何を言いたいのかよく分からない話し方だったりする児童もいる。例えば、「さんが している。」という話は、「どうしてほしいの。」「その時どう思ったの。その気持ちをどう伝えようか。」というような会話を通して、自分の思いを明らかにしていくことが必要になってくる。
- ・日直の仕事などで、みんなの前であいさつしたり号令をかけたりすることには意欲的に取り組んでいる。

### (2) 2年

- ・学校生活が2年目となり、みんなの前で話すことにだいぶ慣れてきた。朝の会や帰りの会の司会など、パターンにのっとりとした話し方ではあるが、スムーズにできるようになった。
- ・スピーチを取り入れたところ、友達に自分の話が伝わった喜びを感じていたようだ。さらに、スピーチに対して質問を設けたことで、友達との話のやりとりを楽しむ姿も見られるようになったが、中にはまだ苦手を感じている児童もいる。
- ・日常生活の中で、児童は自分の話したいことを一生懸命話そうとするが、順序立てて話すことは、まだ難しいようである。また、いろいろな体験をして伝えたいという思いがあっても、語彙が少ないので、言葉として表現するのは難しい面があるようだ。
- ・クラス全体での話し合い活動では、自分の話したいことを言うだけで、なかなかうまく進まないことがある。

## 2 研究の方向性

### (1) 指導法の工夫・改善

- ・豊かな体験を数多く持たせ、話したいという思いが持てるようにする。
- ・「独話」「対話」「会話」などの様々な形式を取り入れた「話すこと・聞くこと」に関する言語活動を体験させる。
- ・「話すこと・聞くこと」の話題や題材をできるだけ身近なものにする。また、想像性に富んだものも、この時期の児童には有効である。
- ・話し方、聞き方の基本的な技能を見に付けるためのパターンを示す。

(2) 伝え合う力を高めるための系統的な取り組み

全体指導計画

は研究授業の単元

	1 年 生	2 年 生
国語単元名 (話すこと聞くことを中心に)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの練習をしよう</li> <li>「どうぞよろしく」</li> <li>・発見したことを、みんなに伝えよう</li> <li>「たんけんしたよ、みつけたよ」</li> <li>・尋ねたり教えたりして、やりとりを楽しもう</li> <li>・敬体表現に親しもう</li> <li>「好きなものおしえて」</li> <li>・はっきり話そう</li> <li>「みんなにしらせたいこと」</li> <li>上手な話し方聞き方を工夫しよう</li> <li>「おみせやさんごっこをしよう」</li> <li>・分からないことや詳しく聞きたいことを尋ね合おう</li> <li>「わたしはなんでしょう」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だいじなことをおとさずに、話したり聞いたりしよう</li> <li>「ともこさんはどこかな」</li>   <li>ともだちに分かるように話そう</li> <li>「あったらいいな、こんなもの」</li>   <li>・すすんで話したり聞いたりしよう</li> <li>「何に見えるかな」</li> </ul>
他教科との関連	<p>[生活]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「名刺をこうかんしよう」</li> <li>「学校をたんけんしよう」</li> </ul>	<p>[生活]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「わたしの町をしょうかいしよう」</li> <li>「できるようになったことをおしえあおう」</li> </ul>
異学年交流で相手意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2年生「フェスティバル」への招待</li> <li>・6年生へのお礼の会を開こう</li> <li>・幼稚園の人に学校のことを教えよう</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「みんなでつくろうフェスティバル」 (生活 1年生を招待して)</li> </ul>
はっきりと声に出して表現させる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のスピーチ</li> <li>・音読</li> <li>・帰りの会での感想発表</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・朝のスピーチ</li> <li>・音読</li> </ul>
豊かな表現、日本語の美しさにふれさせる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・朗読を聞く</li> <li>・ことばあそび</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・朗読を聞く</li> <li>・詩の視写</li> <li>・ことばあそび</li> </ul>
聞くことを楽しませる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・紙芝居</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・読み聞かせ</li> <li>・紙芝居</li> </ul>
基本的なコミュニケーション能力を高める。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・だれでも何でも話せる学級の雰囲気を作る。</li> <li>・教室で声を出す機会を日常的に増やし、声を出すことを楽しめるようにする。</li> <li>・基本話型、基本聴型を示し、繰り返し指導を行う。</li> <li>・日常会話の中で、場や相手に応じた話し方、聞き方の指導を行う。</li> </ul>	

(3) 個に応じた指導

- ・「話すこと・聞くこと」に関するひとりひとりの実態について把握し、データを重ねておく。それらをもとに、個別に声をかけたり、適切な支援を行ったりする。

(4) 一人一人を生かす評価の工夫

- ・評価カード等を工夫して、学習過程の中で自己評価や相互評価を取り入れる。

(5) 児童の望ましい学習習慣の形成

- ・いろいろな学習場面で、「話すこと・聞くこと」の基本的なことが身に付くように、繰り返し指導していく。

《国語スキルタイム学習計画》

学年	音声言語に関すること	文字言語に関すること
1年	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝のスピーチ</li><li>・音読</li><li>・本の紹介</li><li>・読み聞かせ、紙芝居</li><li>・ことばあそび</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ひらがな、カタカナ、漢字スキル</li><li>・日記</li><li>・視写</li></ul>
2年	<ul style="list-style-type: none"><li>・朝のスピーチ</li><li>・音読</li><li>・本の紹介</li><li>・読み聞かせ、紙芝居</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・漢字スキル</li><li>・本の紹介カード</li><li>・詩の視写</li></ul>

3 研究計画

<低学年部年間計画>

月	内容	1年の単元	2年の単元
4	研究全体計画	「どうぞよろしく」	
5	学年部計画立案 研究授業決定(授業者)	「たんけんしたよ みつけたよ」	
6	教材研究		「ともさんはどこかな」
7	指導案検討	「すきなものおしえて」	
8	同上		
9	研究授業 2年2組	「みんなにしらせたいこと」	「あったらいいな こんなもの」
10	指導資料の整理・蓄積		
11	指導案検討		
12	研究授業 1年2組	「おみせやさんごっこを しよう」	
1	学年部研究のまとめ	「わたしはなんでしょう」	「何に見えるかな」
2	(成果と課題)		
3	研究全体会		